

東委員（民主県政会）

令和4年3月11日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) 公立小学校における教員受験倍率について

広島県の小学校教員受験倍率は、昨年並みの1.6倍のまま推移しているが、この状況についてどのような認識か教育長に伺う。また、本県において「学びの変革」を推進していく上で、教員志願者にも「学びの変革」を理解してもらわなければならないが、どうやって公立小学校の教員志願者を増やしていくのか、併せて教育長に伺う。

(答)

小学校の受験倍率につきましては、平成30年度以降、2倍を割り込んでおり、他の校種の倍率と比べて、低い状況が続いており、小学校の35人学級や教科担任制の導入が進められる中で、十分な受験者を確保していく必要があると考えております。

そのため、小学校の教員志望者の増加に向けて、平成29年度から、大学生を対象に、本県が実施している「学びの変革」を学校現場で直接体験し、理解を深めることができる「広島県教師養成塾」の取組を進めているところでございます。

参加者の中からは、子供たちと触れ合った経験から、本県の教育に魅力を感じ、実際に小学校教諭として教壇に立つ者も出てきております。

また、この取組を発展させ、今年度から職員が出前講義として、県内外の大学に出向き、本県が進める「学びの変革」への参加を呼び掛けているところでございます。

私自らも、県内各大学の教員になりたい学生が参加するイベントで、「学びの変革」をテーマに講義を行い、広島県の教育の素晴らしさをアピールしたところであり、こうした様々な取組を推進していくことで、受験者の確保に努めてまいります。